

製品名: ピニンウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab16157**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300
分子量	85kDa

抗原情報

遺伝子名	PNN PNN; DRS; MEMA; Pinin; 140 kDa nuclear and cell adhesion-related phosphoprotein;
別名	Desmosome-associated protein; Domain-rich serine protein; DRS protein; DRSP; Melanoma metastasis clone A protein; Nuclear protein SDK3; SR-like protein
遺伝子 ID	5411.0
SwissProt ID	Q9H307
免疫原	抗血清はヒト PNN 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 211-260

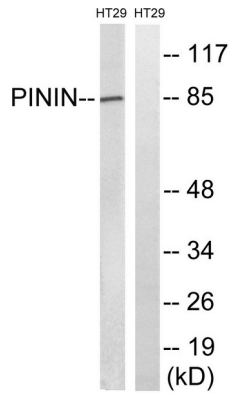
背景

機能: E-カドヘリンプロモーター遺伝子の E-box 1 コア配列に結合する転写活性化因子。コア結合配列は 5'CAGGTG-3'である。CTBP1 を介した転写抑制を反転させることができる。また、選択的プレ mRNA スプライシングの制御にも関与する。5'スプライス部位から 60 ヌクレオチド上流以内のスプライスされた mRNA に結合する。上皮細胞間接着の確立と維持に関与する。腎細胞癌の潜在的な腫瘍抑制因子。、PTM: DNA 損傷時にリン酸化されるが、おそらく ATM または ATR による。、類似性: ピニンファミリーに属する。、細胞内局在: 細胞間接着領域、主に細胞間接着結合のデスモソーム。核と細胞質の間を往復するタンパク質ではない。、サブユニット: SR タンパク質との複合体に存在する。RNPS1 との mRNP 複合体に存在する。C6orf111/SRRP130、CTBP1、CTBP2、KRT8、KRT18、KRT19、PS1D/PNO40、PPIG、RNPS1、SFRS4、SRRM2 と相互作用します。スプライソソーム C 複合体に同定され、少なくとも AQR、ASCC3L1、C19orf29、CDC40、CDC5L、CRNKL1、DDX23、DDX41、DDX48、DDX5、DGCR14、DHX35、DHX38、DHX8、EFTUD2、FRG1、GPATC1、HNRPA1、HNRPA2B1、HNRPA3、HNRPC、HNRPF、HNRPH1、HNRPK、HNRPM、HNRPR、HNRPU、KIAA1160、KIAA1604、LSM2、LSM3、MAGOH、MORG1、PABPC1、PLRG1、PNN、PPIE、PPIL1、PPIL3、PPWD1、PRPF19、PRPF4B、PRPF6、PRPF8、RALY、RBM22 から構成されています。RBM8A、RBMX、SART1、SF3A1、SF3A2、SF3A3、SF3B1、SF3B2、SF3B3、SFRS1、SKIV2L2、SNRPA1、SNRPB、SNRPB2、SNRPD1、SNRPD2、SNRPD3、SNRPE、SNRPF、SNRPG、SNW1、SRRM1、SRRM2、SYF2、SYNCRIP、TFIP11、THOC4、U2AF1、WDR57、XAB2 および ZCCHC8。、組織特異性:胎盤、肺、肝臓、腎臓、膵臓、脾臓、胸腺、前立腺、精巣、卵巣、小腸、結腸、心臓、表皮、食道、脳、平滑筋および骨格筋で発現します。メラノーマの転移病変および進行原発性腫瘍で強く発現している。、機能: E カドヘリンプロモーター遺伝子の E ボックス 1 コア配列に結合する転写活性化因子。コア結合配列は 5'CAGGTG-3'である。CTBP1 を介した転写抑制を逆転させることができる。また、選択的プレ mRNA スプライシングの調節にも関与する。5'スプライス部位から 60 ヌクレオチド上流以内のスプライスされた mRNA と結合する。上皮細胞間接着の確立と維持に関与する。腎細胞癌の潜在的な腫瘍抑制因子。、PTM: DNA 損傷時にリン酸化されるが、おそらく ATM または ATR による。、類似性: ピニンファミリーに属する。、細胞内局在: 細胞間接触領域、主に細胞間接着結合のデスモソーム。核質間輸送タンパク質ではありません。、サブユニット:SR タンパク質との複合体中に存在します。RNPS1 との mRNP 複合体中に存在します。C6orf111/SRRP130、CTBP1、CTBP2、KRT8、KRT18、KRT19、PS1D/PNO40、PPIG、RNPS1、SFRS4、SRRM2 と相互作用します。スプライソソーム C 複合体に同定され、少なくとも AQR、ASCC3L1、C19orf29、CDC40、CDC5L、CRNKL1、DDX23、DDX41、DDX48、DDX5、DGCR14、DHX35、DHX38、DHX8、EFTUD2、FRG1、GPATC1、HNRPA1、HNRPA2B1、HNRPA3、HNRPC、HNRPF、HNRPH1、HNRPK、HNRPM、HNRPR、HNRPU、KIAA1160、KIAA1604、LSM2、LSM3、MAGOH、MORG1、PABPC1、PLRG1、PNN、PPIE、PPIL1、PPIL3、PPWD1、PRPF19、PRPF4B、PRPF6、PRPF8、RALY、RBM22 から構成されています。RBM8A、RBMX、SART1、SF3A1、SF3A2、SF3A3、SF3B1、SF3B2、SF3B3、SFRS1、SKIV2L2、SNRPA1、SNRPB、SNRPB2、SNRPD1、SNRPD2、SNRPD3、SNRPE、SNRPF、SNRPG、SNW1、SRRM1、SRRM2、SYF2、SYNCRIP、TFIP11、THOC4、U2AF1、WDR57、XAB2 および ZCCHC8。、組織特異性:胎盤、肺、肝臓、腎臓、膵臓、脾臓、胸腺、前立腺、精巣、卵巣、小腸、結腸、心臓、表皮、食道、脳、平滑筋および骨格筋で発現します。メラノーマの転移病変および進行した原発性腫瘍で強く発現していません。

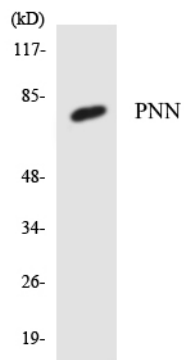
研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達、転写、転写因子、がん、腫瘍タンパク質/抑制因子、腫瘍抑制因子、がん感受性、DNA/RNA、RNA プロセッシング、スプライシング、ドメインファミリー、HLH/ロイシンジッパー、HLH

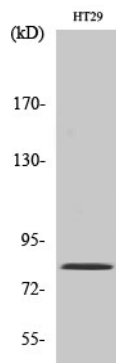
画像データ



PNN 抗体を用いた HT-29 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



PNN 抗体を使用した K562 細胞の溶解物のウェスタン ブロット分析。



ピンインポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析